

移住就農

新規参入

研修制度



吉備 健二さん・亜起さん(岡山市)

就農：2019年（就農当時39歳）

新規就農研修：2017年5月～2019年3月

就農パターン：移住就農（県外の非農家出身）

健二さん→奈良県出身

亜起さん→兵庫県出身

耕地面積：1.5ha（うち借地10a）

経営面積：桃1.5ha（11品種）

経営参画者：夫婦2人

美味しい桃と楽しい毎日を作り出すべく日々精進。家族との時間を大切に  
するために農家になったことは、今後も忘れずやっていきたい。

### ——就農のきっかけは？

いずれは自分で方針を決めることができる仕事に就きたいと思っていた時、岡山県出身の前職の同僚が、県の研修制度を利用して桃農家として就農したと聞いた。彼の話聞く中で、農業という職業は自分の持つ仕事観に合致すると思い、また、前職会社の外資系への移行や子供の就学のタイミングもあり、就農を決意した。「仕事を辞めて就農したい」と妻に伝えた時は驚かれたが、私の熱意や今後の計画を話し合い、理解を得て今では一緒に作業をしている。また、農業を始めるにあたっては活用できる補助金制度があるということもポイントだった。

### ——前職の経験は活かしている？

分野は違っても、会社員での経験は確実に自分を鍛えてくれていたと感じる。

会社員時代の苦労があったからこそ「農家となって成功している」と今の自分の評価ができていると思う。最初から農家になっていたとすれば今の自分の立ち位置がいいのか悪いのか評価が難しいと思う。知

識・技術的にはブログを書いたり、注文票を作成したりというところに役立っている。

### ——岡山（岡山市）を選んだ理由は？

前職で勤務していた広島県から近く、そこに「桃」という起業化・事業化しやすい農産物があったことが大きな理由である。

最初から岡山を候補地として選んでいたため、他の就農候補地は考えていなかった。

### ——「桃」を選んだ理由は？

昔から果物が好きだったことに加え、先に桃農家として就農した同僚が受入農家と一緒に畑を造成しているのを見て、造成は桃づくりのための作業ではあるのだけれども単純に重機を使って自分も造成をやりたいと思った（DIYが趣味なので）。5人の家族を支えると考えた時、補助制度も整っており、農業、桃栽培はやりやすいのではないかと、やっていけそうだと感じた。

### ——就農で苦労した点と対処法は？

#### 【農地】

受入農家が口利きをしてくれたものの、

売りに出されるのは営農に不利な農地ばかりだった。選べる立場でもなく、受入農家の「造成を一緒にしてやる」という言葉が後押しとなり、買った農地を造成して対処した。

### 【資金（経営・生活）】

倉庫、土地、農業機械等については貯金と、補助金の活用で対応した。どのような補助金があるのか、JA や普及指導センターから情報を得ておくというのが大事なポイントだ。色々補助もあり、魅力的な起業方法だと思う。

### 【栽培技術】

非農家出身で分からないことが多かったが、好きだし、技術なしに食べていけないのはわかっているので、研修以外にも1年350日くらいは受入農家、先輩農家について回っていた。すぐ役に立つかどうかわからないようなこと（家庭菜園など）でも、必死に勉強した。おかげで、独立してから困ったということはあまりなかった。

### 【住宅】

家賃が安い家の中々見つからなかったが、幸運にも抽選に当選したので、はじめは県営住宅に住んでいた。受入農家からのつながりで昨年購入した土地に、今年新築・入居することができた。

### 【労働力】

周囲の大きな農家は、園主と親御さんの2世代でやっていることが多いが、うちは夫婦2人なので、少ない労働力でやっていけるよう、時期ごとの労働時間の均一化、省力化をテーマとして検討している。均一化すれば労働ピークがさがるので均一化が最優先。品種や樹のつくり方も収穫のピークを考えてデザインしている。

労働力が夫婦2人なので一つの品種に絞るより負担を軽くするため時期をずらしてオールシーズンカバーできるように11品種の桃を栽培している。まだ定植したばかりの若木が多く、樹づくりに力を入れ、研修での経験をベースに研修先農家やJA 営農指導員などに質問しながら作業に取り組んでいる。

### ——計画と現実のギャップはあった？

研修期間の2年、独立後5年間の青写真は考えていた。補助金などを活用し、独立して5年までに土地の造成を終わらせて樹を育成し、家を建てる計画。実際には家は6年目に建てることができ、計画に対しては、ほぼ及第点だと思う。

積み上げてきたものをベースに今後は負担も少し軽くなると思うので、これまでほとんどできなかった子どもたちの相手もできるようになるし、理想の状態を目指して頑張ろうと思っている。なお、今後の計画には自分たちが年をとっていくに応じた経営計画も織り込んでいる。

### ——地域への適応、順応に苦労した点、気を付けた点は？

自分の性格は、割と素直に聞く方なので、そんなに苦労はしなかった（性格がたたくて前職でパンクしかけたこともあるが…）。我を通すことはなく、周りに迷惑をかけないように、地域の催事にも積極的に参加するし、ほ場の草刈も地域の方々のやり方に倣うようにしている。消防団や、農業後継者クラブにも参加している。

### ——今後やりたいことは？

やりたいことはあるが、実はプレッシャーに弱く有言実行が苦手なので、こっそり

やりたい（今は内緒です…）。

子供達も箱折りや袋掛けなど手伝ってくれるようになったので、子供たちとコミュニケーションをとりながら家のそばに建てた作業場で作業したい。子供たち3人が3人とも「将来の夢は桃農家」と言ってくれている（嬉しい）。そして、受入農家さんや先輩農家さん、産地に、今後できることで恩返ししていきたい。

#### ——経営目標は？

前職の給料以上を、というのはあるが、大儲けしたいとは考えていない。家族経営を基本にして、無理なく、生活できる程度にと考えている。一般的には1.5haを2人で経営するというのは大変だが、栽培の仕方を工夫して、現状規模で無理なく経営できるようにしたい。

#### ——農業のやりがいとは？

自分でやったことに伴った結果が得られるというところが、農業のやりがいであり魅力だと思う。また、重機の使用など自分のやりたいことも散らばっていた。前職ではできなかったが、今は夫婦2人で一緒に仕事できるということもよいところ。

まだ、慣れないことも多く大変なこともあるが、いろいろな経験を積み、何をしていても楽しく、魅力を感じている。

#### ——産地に入るメリットは？

桃の木をまともに見たこともなかった私が、曲がりなりにも100本を超える木を管理し、2tダンプ、ユンボ、果てはブルドーザーにまで乗れるようになった（草刈り機も使ったことがなかった）。一人では、到底このようなロケットスタートは不可能で、産地の先輩農家さんあってこそだと思う。

また、当産地の桃はすでにブランド化されている。私の場合、経営作物として桃を選択するという事は、すなわちこの産地のブランドを選択するという事だった。

#### ——今の産地の魅力は？

桃自体に魅力がある。消費者の方もシーズンになると「桃」、となる。最近は県外にも波及していると感じる。ネットや直売所で岡山の桃を県外の方が購入される場面が増えている。

桃栽培を始めたい方への支援体制が整っている。

#### ——就農前の自分へアドバイスするとしたら？

幸い、ほぼ計画どおりこられたので、「色々調べてまわりを説得したことについて、よくやった（褒）」「英断だった」「信じて進め」「病気になるな」「怪我するな」。

#### ——私の一文字

「躍」。

いつまでも、現役でやっていきたいとの意味を込めて。

